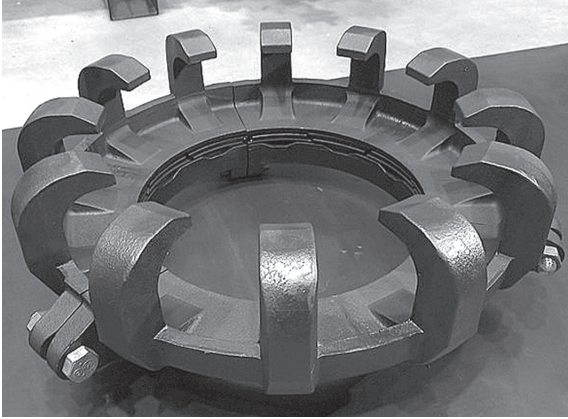


本紙2月1日付で既報の通り、大成機工の耐震補強金具がNHK国際放送(NHK World)の科学番組「Science View(サイエンス・ビュー)」の1月20日放送で紹介された。東日本大震災の発生から10年を迎えた今月は震災特集月間として、17日に再放送される。

サイエンス・ビューは全編英語の30分番組で、日本人科学者やエンジニアによる最先端の研究成果や革新技術が紹介されている。1月の放送では、プレート間で生じる非常に遅い滑り現象「スロースリップ」に関する最新かつ多彩な研究成果が紹介された。また、日本生まれの画期的な製品・技術と開発者を紹介する「J-Innovator s(匠)」のコーナーでは、約6分間にわたり、高い施工性と離脱防止性能を両立する耐震補強金具の秘密に迫った。

NHK ワールド 「サイエンス・ビュー」 3月17日に再放送



高い施工性と離脱防止性能を両立

収録は大成機工の三田工場(兵庫県三田市)で行われ、フリーアナウンサーの山本ミッシェルのぞみさんがリポーター役として、戸次(べっき)浩之・技術部長にインタビュアーしている。

冒頭、山本さんは「地震の発生後、被災者を長く苦しめるのが断水に代表されるライフラインの遮断です。今日はこの断水を防ぐ

耐震補強金具の秘密に迫る

画期的な技術を紹介しましょう」とあいさつ。

ロケ現場に移り、「匠」として紹介された戸次次長は継手部を補強する意義について説明し、呼び径400のフランジ形ダクタイル鉄管の継手部に製品を取り付けるデモンストラーションを披露した。既設管の継手部にそのまま取り付けできることや、通水状態で施工できること、特殊な工具が不要であること、短時間で施工できることなどの特長がナレーションで紹介された。

製品を取り付けるだけで震度7の揺れにも耐えられる仕組みを尋ねる山本さんに対し、戸次次長は「フランジ部をフックで引っかける構造とし、縦揺れや横揺れに柔軟に追従できるようにしたこと、抜け出し力に対しては押しボルトの先端部にクサビ構造のパーツを配置し、ボルトと管体の間でデーパー形状のパーツ

が強く噛み合う構造とした」と説明。継手部にかかる抜け出し力を利用して高い離脱阻止性能を発揮する耐震補強金具は断水なしで既設管の継手部を部分的に補強できるため、施工現場への影響を最小限に抑えられるなどと好評を得ている。ユーザーの強い要望に応え、現在は最大口径1350mmまでラインナップを拡充。平成30年度には「第2回インフラメンテナンス大賞」厚生労働大臣賞を受賞した。

なお、動画は番組ホームページで視聴できる。



◆収録を終えた戸次次長の話

「番組は製品の原理から使用状況まで、模型と現物を使用してまとめられて分かりやすい内容でした。地震特集のあとに製品を紹介する流れは、日本の水道管の耐震補強対策の現状を強調して伝えられたと思います。普段は製品の開発に徹していますが、今回の収録では説明側として見返す機会となり、一連の番組制作は貴重な体験となりました」



番組QRコード